

授業概要

「子どもと家族」をとりまく社会状況について、さまざまな観点から学び、支援のあり方を考えていきます。同時に3年次以降の専門的な研究をすすめるうえで必要となる、論文作成のための知識や作法を身につけられるよう指導します。

前期は、家族社会学の基礎的な文献をとりあげ、テキストの読み解き方、参考文献や関連資料の探し方、レジュメの作成方法、プレゼンテーションの方法、質疑応答におけるマナーやルールなど基本的なことを学びます。後期はそれらを活かして、仲間と協力しながらテーマセッションやグループ研究に取り組みます。また2年次以降の実習において必要となる文章力の向上を目指し、文章実践のトレーニングも組み込む予定です。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション～ゼミの作法	第 16 回	後期のすすめ方
第 2 回	ゼミメンバーとの交流	第 17 回	文章実践トレーニング1
第 3 回	アカデミックスキルズって何？	第 18 回	文章実践トレーニング2
第 4 回	レジュメの作成と報告の方法	第 19 回	文章実践トレーニング3
第 5 回	テキストを読み解く1	第 20 回	テーマセッション1
第 6 回	テキストを読み解く2	第 21 回	テーマセッション2
第 7 回	テキストを読み解く3	第 22 回	テーマセッション3
第 8 回	参考文献の探し方	第 23 回	テーマセッションまとめ
第 9 回	関連資料の探し方	第 24 回	グループ研究1
第 10 回	文献報告に挑戦1	第 25 回	グループ研究2
第 11 回	文献報告に挑戦2	第 26 回	グループ研究3
第 12 回	文献報告に挑戦3	第 27 回	グループ研究4
第 13 回	文献報告に挑戦4	第 28 回	プレゼンテーションの方法
第 14 回	文献報告に挑戦5	第 29 回	研究成果報告会
第 15 回	後期に向けて	第 30 回	まとめ～3年生にむけての課題

到達目標

「子どもと家族」をとりまく現代社会の問題について理解を深めることができる。

3年次以降の専門的な学習に必要な知識や態度を身につけることができる。

自分の研究関心のありかを明らかにすることができる。

文章を書く練習をし、レポート作成や実習日誌作成のための力をつけることができる。

履修上の注意

楽しく意欲的に学ぼうとする態度を求める。

課題や報告に積極的に取り組むことを求める。

仲間と活発に議論する態度を求める。

子育て支援に関する施設見学やボランティア参加など、学外での活動に取り組む場合もある。

予習復習

報告者は、文献を読み、レジュメを作成するなど、報告準備をする。

報告者以外の参加者は、文献を読んだうえで、質問やコメントを準備してくる。

テーマセッションやグループ研究においては、各自が毎回、作業を分担する。

評価方法

出席がもっとも重要（50%）。さらに、ゼミでの報告態度や報告内容（30%）、議論への参加態度（10%）、課題レポート（10%）等で、総合的に判断する。

テキスト

取り上げるテキストや文献については、初回のゼミで参加者の興味・関心を確認したうえで、相談して決める。

授業概要

「こどもの貧困」「児童虐待」「ヤングケアラー」「ひとり親家庭」など、こどもや若い世代におきている問題を把握し、理解を深め、興味・関心を高めていく。春期では「子供の生活状況調査の分析」報告書と「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書を中心にこどもの貧困と被虐待児の状況について学び、解決に向けて必要な取り組みについて検討する。秋期には児童養護施設での支援やケアについての文献やこども食堂にかかわる文献を読み、学びを深める。さらに各自の興味がある問題をとりあげ、解決や専門職のかかわりについて考えていく。また、川口市で毎月 1 回実施されているこども食堂に参加する他、履修者の興味にもとづき児童福祉施設への見学も実施したい。

キーワード：こどもの貧困、こども食堂児童虐待、児童養護施設での支援・ケア、地域子育て支援

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	文章の書き方 ～メール・手紙～	第 17 回	「こどもの貧困」について
第 3 回	文章の書き方 ～お礼状～	第 18 回	「こどもの貧困」について
第 4 回	こども食堂について	第 19 回	〔学外活動〕こども食堂
第 5 回	〔学外活動〕こども食堂	第 20 回	「児童虐待とケア」について
第 6 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書を読む	第 21 回	「児童虐待とケア」について
第 7 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書を読む	第 22 回	「児童虐待とケア」について
第 8 回	「子供の生活状況調査の分析」報告書を読む	第 23 回	〔学外活動〕こども食堂
第 9 回	〔学外活動〕こども食堂	第 24 回	個人発表にむけて
第 10 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第 25 回	個人発表
第 11 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第 26 回	個人発表
第 12 回	「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書	第 27 回	〔学外活動〕こども食堂
第 13 回	「学外活動」こども食堂	第 28 回	個人発表
第 14 回	「こども食堂」の活動に参加したまとめ	第 29 回	個人発表
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期及び 1 年のまとめ

到達目標

- ・「こども食堂」に参加することで、こどもとかかわる力をつけ、地域での子育てを支える活動を理解することができる。
- ・こどもや若い世代の問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考える力をつけていくことができる。
- ・報告書を読むことで統計情報の読み方を理解し、報告書全体の理解を深めていくことができる。
- ・発表する力、発言する力、文章をまとめる力をより向上させていくことができる。

履修上の注意

- ・月 1 回実施されている「こども食堂」の活動に参加するので、「こども食堂」に興味があり、参加したい気持ちがある人が履修して下さい。
- ・報告書の内容について発表し、その内容についてディスカッションを行うので、積極的な参加を求めます。
- ・遅刻、欠席はしないこと。

予習・復習

演習内で提示します。

評価方法

発表の内容・充実度 40%、期末レポート 40%、授業への参加度（発言回数、内容など）20%をふまえ、評価する。

テキスト

報告書は Web に公開されているものを用います。
その他、必要に応じて、指示する。または授業時に資料を配布します。

授業概要

子どもを理解するためには、個の発達の側面と、社会文化的な側面の両方を理解する必要がある。そこで本演習では発達心理学の視点から人間を理解し、保育や教育の専門職に必要な知識を身につけられるよう指導する。

春期は発達心理学において注目されているテーマについての文献を講読する。秋期は春期で学んだことをもとに、各自で興味・関心のある事柄について先行研究を調べて発表を行う。次年度の専門演習に向けて問題意識を持ち、研究計画を立てる。

授業ではグループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、活発な意見交換を行う。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	子どもの発達を知る①運動領域	第17回	春期の復習
第3回	子どもの発達を知る②認知領域	第18回	論文の検索方法と読み方
第4回	子どもの発達を知る③言語領域	第19回	論文講読①調査法
第5回	発達心理学の文献講読①	第20回	論文講読②観察法
第6回	発達心理学の文献講読②	第21回	論文講読③面接法
第7回	発達心理学の文献講読③	第22回	各自で興味・関心のあるテーマを絞る
第8回	発達心理学の文献講読④	第23回	先行研究を調べる
第9回	発達心理学の文献講読⑤	第24回	問題意識を明確にする
第10回	グループワーク①（興味・関心を絞る）	第25回	発表の準備をする（PowerPoint）
第11回	グループワーク②（発表の準備をする）	第26回	個人発表①
第12回	グループ発表①	第27回	個人発表②
第13回	グループ発表②	第28回	個人発表③
第14回	グループ発表③	第29回	専門演習に向けて研究計画を立てる
第15回	春期のまとめ、意見交換	第30回	秋期のまとめ、振り返り

到達目標

- ・文献講読を通して、保育や教育の専門職として必要な子どもの発達に関する知識が得られる。
- ・発達心理学に関する論文の講読を通して、論文に慣れることができる。
- ・自分の興味・関心のあるテーマについて先行研究を調べ、問題意識を持ち、発表することができる。

履修上の注意

- ・遅刻や欠席は原則としてしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。
- ・授業には積極的な態度で参加し、常に相手を思いやる気持ちを持つこと。
- ・必要に応じて外部施設の見学を行う場合がある。

予習・復習

- ・発表者は事前にレジュメまたはPowerPointを作成し準備をする。それ以外の参加者にも、レポートなどが課される。
- ・授業で扱う文献は事前に目を通したり、後で読み直したりして知識の定着を図る。

評価方法

- ・授業への参加態度（40%）、発表（40%）、ワークシートやレポートなどの提出物（20%）で評価する。

テキスト

- ・授業内で指示する。
- ・その他必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

基礎演習は3年次以降の専門演習につなげていくための基礎的な「演習」を体験する場です。報告のための資料収集、レジュメの作成方法、演習での議論の仕方、司会・コメンテーターの役割について学んでいきます。春期は、〈障害がある〉とはどのようなことを考え、関連資料を読み解きながらグループで議論することを通して、自分自身の研究テーマを考えていくことを目標とします。

秋期は、〈障害学の成立〉を始めとして障害学の基本的な考え方を学んでいきます。文献輪読を3回行った後にディスカッションの場を設けて自分の意見をわかりやすく伝えるスキルも磨けるように指導します。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	ゼミメンバーとの交流	第17回	文献輪読①：「障害」とは何か
第3回	図書館における文献検索方法	第18回	文献輪読②：障害学の成立
第4回	参考文献の検索方法	第19回	文献輪読③：障害者運動
第5回	社会調査：質的調査法	第20回	ディスカッション①
第6回	レジュメの作成方法①	第21回	文献輪読④：障害とスティグマ
第7回	レジュメの作成方法②	第22回	文献輪読⑤：障害の個人モデルから社会モデルへ
第8回	レポートの作成方法①	第23回	文献輪読⑥：障害者差別解消法と合理的配慮
第9回	レポートの作成方法②	第24回	ディスカッション②
第10回	討論と発表の方法①	第25回	文献輪読⑦：学校現場における「障害」
第11回	討論の発表の方法②	第26回	文献輪読⑧：能力主義を問う
第12回	グループ報告①	第27回	文献輪読⑨：障害者の進学と就労
第13回	グループ報告②	第28回	文献輪読⑩：インクルーシブ社会とは
第14回	グループ報告③	第29回	ディスカッション③
第15回	春期まとめ	第30回	秋期まとめ

到達目標

- ・資料の読み取り方法と基本的な文章作成を身につけることができる。
- ・演習におけるディスカッションを通して、自分の意見をわかりやすく伝えるスキルを習得することができる。
- ・文献輪読を通して「障害学」に関する理解を深めることができる。

履修上の注意

- ・意欲的に学ぶ姿勢を求めます（遅刻や欠席は原則不可、やむを得ない場合は事前に連絡すること）
- ・仲間と積極的に議論する態度を求めます
- ・課題や報告に真剣に取り組む姿勢を求めます

予習・復習

- ・配布資料があれば事前に読み込んでおき、疑問点を明らかにしておくこと
- ・報告者は必ず文献を読み、レジュメを作成すること
- ・報告者以外も文献を読み、毎回疑問点やコメントを準備しておくこと

評価方法

- ・授業における参加態度（40%）、課題等の提出物（40%）、報告内容（20%）から総合的に判断します

テキスト

秋期に取り上げる文献については、現時点では下記を候補としています

- ・杉野昭博,2007,『障害学 ―理論形成と射程―』東京大学出版会
- ・星加良司,2007,『障害とは何か ディスアビリティの社会理論に向けて』生活書院

授業概要

本演習では、「子どもの声をどのように聴くか」をテーマに、問いを共に探究していき、研究や報告の方法の基本的姿勢を学ぶ。

子どもの声を聴くことは、保育実践において、そしてこどもまんなか社会において、欠かせないことである。しかし、子どもの声は必ずしも音声言語のみで表現されるものではないため、それを聴く方法は容易ではなく、評価という行為と共に、大人の「ものさし」を押し当てることに帰結してしまう可能性が常に存在する。本演習では、国際的な保育の動向についても学びながら、子どもの声を聴くことや保育記録のあり方などについて、深く考えていく。春期に輪読予定の文献は『子どもの声からはじまる保育アセスメント：大人の「ものさし」を疑う』松井剛太・松井博雄編著（北大路書房）である。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	子どもの声と子どもの権利	第 17 回	ドキュメンテーションの実際③
第 3 回	子ども観と保育観	第 18 回	ドキュメンテーションの実際④
第 4 回	レッジョ・エミリア①	第 19 回	論文の調べ方と読み方
第 5 回	レッジョ・エミリア②	第 20 回	論文購読①
第 6 回	ドキュメンテーション①	第 21 回	論文購読②
第 7 回	ドキュメンテーション②	第 22 回	論文購読③
第 8 回	文献輪読①	第 23 回	研究テーマの設定
第 9 回	文献輪読②	第 24 回	先行研究の調査
第 10 回	文献輪読③	第 25 回	個人発表に向けて
第 11 回	文献輪読④	第 26 回	個人またはグループ発表①
第 12 回	文献輪読⑤	第 27 回	個人またはグループ発表②
第 13 回	ドキュメンテーションの実際①	第 28 回	個人またはグループ発表③
第 14 回	ドキュメンテーションの実際②	第 29 回	研究計画の作成
第 15 回	春期まとめ	第 30 回	秋期まとめ

到達目標

- ・子どもの声を聴くことに関する議論を理解し、子どもに関する記録を丁寧に読み解くことができる。
- ・子どもの声を聴く具体的手段についての理解を深めることができる。
- ・テーマに沿って文献を調べたりまとめたりする力を身につけることができる。

履修上の注意

- ・子どもの声を聴くことや保育記録（日誌、連絡帳、ドキュメンテーション、ポートフォリオなど）のあり方、海外の保育動向などに関心があることを前提として演習を進める。輪読予定文献に興味があることが望ましい。
- ・学ぶことを楽しみ、積極的に議論に参加し共に考える姿勢を求める。

予習・復習

- ・発表担当の箇所についてレジュメを作成し、発表を行う。
- ・発表担当でない回に関しても、事前に指定された文献等を読み、議論に参加する準備を行う。

評価方法

出席（30%）、授業態度・積極性（40%）、課題レポート（30%）から総合的に判断する。

テキスト

授業内にて指示する。その他、適宜必要に応じて資料を配布する。

授業概要

音楽を理論と実践の両面から学び、「学問としての音楽」に対する理解を深める。そのことで、教育現場においてより裏付けのある指導ができるようになることを目指して指導する。理論としては、基本的な楽譜の読み方からソルフェージュ、音楽史まで幅広くとり上げ、それらの知識をもとに音楽作品や演奏について考察する。実践としては、ピアノを中心とした楽器の基本的な奏法や教育現場で必要な作品の演奏技術を習得する。春期、秋期のまとめとして、各自選択した作品についてのプレゼン発表、演奏を行い、音楽を自分の言葉と演奏で明確に伝える力を身につける。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	音楽理論の基礎及びピアノ演奏①	第 17 回	音楽理論の応用及びピアノ演奏①
第 3 回	音楽理論の基礎及びピアノ演奏②	第 18 回	音楽理論の応用及びピアノ演奏②
第 4 回	音楽理論の基礎及びピアノ演奏③	第 19 回	音楽理論の応用及びピアノ演奏③
第 5 回	音楽理論の基礎及びピアノ演奏④	第 20 回	音楽理論の応用及びピアノ演奏④
第 6 回	ソルフェージュの基礎及びピアノ演奏①	第 21 回	ソルフェージュの応用及びピアノ演奏①
第 7 回	ソルフェージュの基礎及びピアノ演奏②	第 22 回	ソルフェージュの応用及びピアノ演奏②
第 8 回	ソルフェージュの基礎及びピアノ演奏③	第 23 回	ソルフェージュの応用及びピアノ演奏③
第 9 回	ソルフェージュの基礎及びピアノ演奏④	第 24 回	ソルフェージュの応用及びピアノ演奏④
第 10 回	西洋音楽史の基礎及びピアノ演奏①	第 25 回	西洋音楽史の応用及びピアノ演奏①
第 11 回	西洋音楽史の基礎及びピアノ演奏②	第 26 回	西洋音楽史の応用及びピアノ演奏②
第 12 回	西洋音楽史の基礎及びピアノ演奏③	第 27 回	西洋音楽史の応用及びピアノ演奏③
第 13 回	西洋音楽史の基礎及びピアノ演奏④	第 28 回	西洋音楽史の応用及びピアノ演奏④
第 14 回	演習及び発表	第 29 回	演習及び発表
第 15 回	春期まとめ	第 30 回	秋期まとめ

到達目標

- ・音楽について、理論と実践の両面から理解を深めることができる。
- ・口頭発表や演奏、教育現場における指導に必要な態度や知識を身につけることができる。
- ・自身の考えを言葉や文章、演奏によって明確に伝える力を身につけることができる。

履修上の注意

- ・音楽（主として西洋音楽）について興味・関心があること。
- ・授業外でも自主的に学び、練習することが履修の前提である。
- ・遅刻・欠席はしないこと。

予習・復習

- ・授業で取り扱う内容の予習復習は勿論、毎日のピアノ練習を欠かさないこと。
- ・演習・発表に向けて積極的に自主学習を進めること。

評価方法

- ・授業態度（積極性・自主性）30%
- ・授業内レポート 30%
- ・演習及び発表 40%

テキスト

- ・授業内で適宜指示する。
- ・その他必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

本演習は、「こんな体育授業がしたい」という願いを実現させることを目的として指導する。そのため、春期では、体育科教育学の入門書である「初等体育科教育」を購読することにより、体育授業の授業設計等に関する基礎的な知識や技能を学ぶ。秋期は、春期に学んだことをもとに専門演習に向け、各自がテーマを決め、先行文献、参考文献、関連資料を調査・検討する。そして、各自で選択した運動領域についての体育科学習指導案を作成して発表し合う。その際、次年度の専門演習に向けて問題意識をもち、授業計画を作成し、発表と議論を通して問題意識を明確にする。授業では、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、活発な意見交換を行う。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	テキスト購読・意見交換「初等体育の内容構成」	第 17 回	指導案作成の手順と形式
第 3 回	テキスト購読・意見交換「初等体育の省察方法」	第 18 回	授業構想（研究テーマ）の設定方法
第 4 回	テキスト購読・意見交換「指導計画 学習環境」	第 19 回	論文の検索方法と読み方
第 5 回	テキスト購読・意見交換「学習指導論」	第 20 回	各自で授業実施運動領域を選択する
第 6 回	テキスト購読・意見交換「体育授業改善」	第 21 回	個人研究①「指導案作成」 意見交換
第 7 回	テキスト購読・意見交換「体づくり運動系授業」	第 22 回	個人研究②「指導案作成」 意見交換
第 8 回	テキスト購読・意見交換「器械運動系授業」	第 23 回	個人研究③「指導案作成」 意見交換
第 9 回	テキスト購読・意見交換「陸上運動系授業」	第 24 回	個人研究④「指導案作成」 意見交換
第 10 回	テキスト購読・意見交換「水泳運動系授業」	第 25 回	個人発表（中間）
第 11 回	テキスト購読・意見交換「ゴール型授業」	第 26 回	指導案の修正① 意見交換
第 12 回	テキスト購読・意見交換「ネット型授業」	第 27 回	指導案の修正② 意見交換
第 13 回	テキスト購読・意見交換「ベースボール型授業」	第 28 回	指導案の修正③ 意見交換
第 14 回	テキスト購読・意見交換「表現運動系授業：」	第 29 回	指導案の修正④ 意見交換
第 15 回	春期のまとめ 秋期に向けて	第 30 回	個人発表（最終）
		第 31 回	授業のまとめ・専門演習に向けて

到達目標

- 「初等体育科教育」の購読を通して、体育授業設計等に関する基礎的な知識や技能を習得することができる。
- 具体的な単元計画および指導計画、授業評価法の立案を通じた指導案の作成方法を理解することができる。

履修上の注意

- 本演習は、3年生の専門演習につながるものであるため、卒業論文を体育科教育に係る内容で作成しようとする学生であること。
- 遅刻や欠席は原則としてしないこと。やむを得ない場合は事前に連絡すること。
- 授業や意見交換には楽しく積極的な態度で参加することを求める。
- 秋期の「個人研究」「指導案の修正」では、実技演習を伴う場合がある。

予習・復習

- 前半は、テキスト購読の復習を行い、体育授業の授業設計等に関する知識・技能を確実に積み上げること。
- 後半は、資料の収集、指導案の作成、発表のための準備等、授業時間外での自主学習が必要となる。

評価方法

- 次のように総合評価する
- ①出席状況：30％ ②各回の意見交換内容：20％ ③個人発表や成果物（指導案）：50％

テキスト

- ・教科書名：岡出美則（編著）「初等体育科教育」ミネルヴァ書房,2018
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」東洋館出版社,2018